

The Record

2009-11 Vol.600



特集

6th TAM

東京アジア・ミュージックマーケット開催



社団法人 日本レコード協会



Contents

Monthly News Digest	1
特集	
6th TAM	
東京アジア・ミュージックマーケット開催	3
特報	
2009年度CDレンタル店実態調査	7
PICK UP	9
600号を迎えたThe Record	11
私の一枚	12
Monthly Production Report	13
GOLD DISC	14

9/30

インターネットオークション サイトでの海賊版音楽DVD 販売の被疑者を逮捕

9月30日、愛知県中警察署は、権利者に無断で複製した音楽DVDをインターネットオークションサイトを利用して販売していた群馬県在住の54歳の男性を著作権法違反の容疑で逮捕した。

この事件は、被疑者が今年5月に、当協会会員社が著作権隣接権を有する「ザンオールスターズ」(ビクターエンタテインメント(株))および、「EXILE」(エイベックス・エンタテインメント(株))の市販DVDを無断で複製し、インターネットオークションサイトに出品・販売し、さらに、9月に販売目的で複製した同様のDVDを自宅に所持していた疑いが持たれたものであり、悪質性の高いものである。

10/05

違法サイトなどの情報掲載 自粛を12出版社に要請

10月5日、当協会および関係11団体※は、著作権・著作権隣接権の侵害を助長するウェブサイトなどの情報を多数掲載した雑誌の出版社12社に対して、掲載の自粛を要請する文書を連名で送付した。

本要請は、ファイル共有ソフトや動画投稿サイト、掲示板サイトなどを利用して違法にアップロードされた音楽、映像作品、ゲームおよびマンガなどのファイルを無料でダウンロードできる方法を紹介している雑誌の出版社12社に対して、文書にて情報掲載の自粛を求めたものである。

これらの雑誌は、そのような違法サイトを知らなかった多数の読者にも、違法にアップロードされた音楽、映像作品、ゲームなどのファイルを容易にダウンロード

できるように情報を提供しており、結果として著作権・著作権隣接権侵害行為を助長するものであり、音楽配信市場の健全な発展を阻害する要因の一つであるといえる。

※(社)音楽出版社協会
(社)音楽制作者連盟
(社)コンピュータソフトウェア著作権協会
(社)日本映画製作者連盟
(社)日本映像ソフト協会
(社)日本音楽著作権協会
(社)日本芸能実演家団体協議会・
実演家著作権隣接権センター
(社)日本音楽事業者協会
日本国際映画著作権協会
一般社団法人日本動画協会

10/15

慶應義塾大学において 久石譲氏を講師に招き 「音楽の創造について」をテーマに 公開講座を実施



10月15日、当協会の慶應義塾大学寄付講座「クリエイティブ産業研究」では、久石譲氏を講師に招き、「音楽の創造について」をテーマに公開講座を実施した。

講義が行われた三田キャンパス北ホールには、履修生の他、会員社等約240名の聴講者が集まった。

現代音楽の第一人者として活躍している久石氏は、自身の経験に基づいた創作活動における信念とノウハウを洒落な語り口で説き明かしていった。



このエルマークは、レコード会社・映像製作会社が提供するコンテンツを示す(社)日本レコード協会の登録商標です

講義は、ご自身が影響を受けたミニマルミュージックについての話に始まり、音楽の歴史について話が及んだ。さらに映画音楽の制作について、脳科学の話から、映像に音楽をのせる際のご自身の経験に基づいた仕事の方法について多角的に語った。

質疑応答の際には、学生からの質問に真摯に耳を傾け、噛み砕いた言葉で丁寧に答える姿が印象的であった。

●●● 会員社のお知らせ ●●●

■ 入会 (10月1日付)

社名: 株式会社アリオラジャパン
(賛助会員)

代表: 代表取締役 軽部重信

住所: 〒102-8353
千代田区六番町4-5

TEL: 03-3515-5848

FAX: 03-3515-5841

■ 退会 (9月30日付)

社名: 株式会社BMG ジャパン
(賛助会員)

RIAJ2009年10月度開催委員会

10/7 マーケティング委員会

10/9 レコード倫理審査会

10/13 法制委員会

10/14 広報委員会

10/16 情報・技術委員会

10/22 二次使用料委員会

10/23 執行委員会

10/28 日本ゴールドディスク大賞委員会

10/30 理事会

当協会 石坂敬一会長、藍綬褒章を受章



平成21年度の秋の褒章において、当協会の石坂敬一会長(ユニバーサルミュージック合同会社会長)が藍綬褒章を受章することとなりました。

石坂会長は、昭和43年東芝音楽工業(現・EMIミュージック・ジャパン)に入社以来、日本のレコード産業の発展に数多くの功績を残してきました。

また、当協会の役員としては平成11年4月に理事に就任、翌年4月から7年3ヶ月の間副会長を務めた後、平成19年7月から会長に就任し、日本の音楽文化の発展に尽力してきました。特に、会長就任以降は、日本音楽の欧米やアジア諸国への積極的なライセンス促進を図るとともに、日本の伝統文化保存の観点から大正・昭和初期のSP盤レコードの保存と公開を積極的に推進してまいりました。さらに、インターネットでの適正な音楽の利用を促進するため、若年層等に対する著作権教育と著作権意識の啓発にも大きな力を入れております。

このように、同人の長年にわたる日本の音楽文化の発展と産業振興への功績が今回の受章に繋がったものと思われまます。

なお、現職の当協会会長の褒章受章は、平成18年秋の佐藤修会長以来で、3人目となります。

受賞コメント

このたびは褒章受賞の栄に浴し、大変光栄に存じます。

音楽ビジネスの世界に足を踏み入れ早40余年。

この間、日本の創造的音楽家の作品群を普及させる活動に携わることができ、且つ海外の素晴らしい音楽を日本の皆様に広くお伝えさせていただきました。

また日本で生み出された豊かな音楽文化を諸外国へ紹介する一翼を担えましたことは大変幸せに思います。

日本は1300年の音楽の歴史(記録)がある世界的にも稀有な国家です。

その起源は701年に文武天皇が大宝律令を制定した際、刑部親王と藤原不比等が雅楽寮、即ち「音楽庁」のような官庁を設立したことに遡り、ここで日本古来の神道楽とアジアの音楽を融合させてきたのがはじまりと言えます。こうした伝統的なものと、舶来のものが共存共栄することで日本独自の音楽文化が育まれてきたのです。

音楽をはじめとする文化産業はその国の国力を図るバロメーターでもあり、「音楽」を日本が世界に誇るコンテンツと捉え、政府をはじめとする関係者の支持を得ながら、さらに世界に輸出していきたいものです。

2009年10月19日～23日にかけて、東京・港区の品川プリンスホテルにおいて、「第6回東京アジア・ミュージックマーケット(6th TAM)」が開催された。

今年度のTAMは、一昨年、昨年に引き続き「JAPAN国際コンテンツフェスティバル(CoFesta)」のオフィシャルイベントの一つとして、日本の音楽コンテンツを海外マーケットに発信することを目的とし開催された。海外現地における実ビジネスの成功を目指して、アジア、欧米諸国より多数の音楽関係者を招き、「プレゼンテーション・商談会」「ビジネスセミナー」「アニメソングライブ」とさまざまなプログラムが展開された。B to Bのイベントとしてより深みを増した今回のTAMをレポートする。

6th TAM

東京アジア・ミュージック マーケット開催

主催 経済産業省 (財)音楽産業・文化振興財団
協力 (社)日本レコード協会 NPO法人映像産業振興機構



撮影：proof

オープニングパーティ

2009年10月19日

TAMがスタートした19日、海外からの招聘者を招いたオープニングパーティが盛大に開催された。冒頭では主催者を代表して、財団法人音楽産業・文化振興財団の北川直樹理事長が



北川理事長

「日本の音楽に世界が注目する状況を、どう生かすかは皆さん次第。ぜひTAMの3日間を有効に使っていただきたい」と挨拶し、続いて経済産業省商務情報政策局の富田健介審議官が登壇し「日本音楽が世界に広がることで、世界の音楽産業発展が導かれることを期待する」と挨拶の言葉を述べた。その後、協力団体を代表して、当協会石坂敬一会長が乾杯の音頭を取り「日本の音楽の良さを感じてもらい、ビジネスに高からしめることができれば、最高である。良質な文化をエクステンションしていきましょう」と呼びかけ、歓談の時間へと続いた。



プレゼンテーション・個別商談会

2009年10月20日～22日

20日には海外音楽関係者に向けたプレゼンテーションが行われた。ライブホールであるステラボール(品川プリンスホテル内)を会場とすることにより、よりリアルな音質で各アーティストの紹介をすることが可能となった。各レコード会社の担当者は、映像と音響を駆使し、自社のアーティストの魅力について語った。

21日、22日の両日には、同じくステラボールに各レコード会社がブースを出展し、海外バイヤー向けの商談会を展開した。アジアから欧米までバラエティに富む国々から訪れたバイヤーたちの中には、限られた時間を効率的に使おうと、本年度リニューアルしたTAMの公式サイトによって、あらかじめ詳細な情報を入手し、事前交渉を行った上で本イベントに参加しているケースも多く、それぞれ興味あるアーティストについて踏み込んだ情報交換が行われていた。



個別商談会で日本の高品質CDを紹介

今回の個別商談会では、SHM-CD(ビクタークリエイティブメディア株式会社)、HQ-CD(メモリーテック株式会社)、Blue-spec CD(株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメント)のブースが隣接して設けられ、海外バイヤーに、日本の高度な技術を紹介した。

各ブースに常駐する関係者は「3社と一緒にブースを並べてアピールする機会を持てたのは、業界にとって非常に有益だった」(ソニー・ミュージックエンタテインメント)、「HQ-CDに加え、高級品のクリスタルCDがアジアの方々の関心を惹き、問い合わせが相次いでいる」(メモリーテック)、「音の違いから、CDに付加価値をつけられるビジネスモデルとしても注目されている」(ビクタークリエイティブメディア)と、それぞれ手ごたえを感じているようであった。



Blue-spec CD



HQ-CD



SHM-CD

バイヤーインタビュー

個別商談会を訪れていた海外バイヤーに、TAMや日本の音楽についてコメントをいただいた。

Ms. Victoria Ngan (台湾) ■ FORWARD MUSIC



TAMによって、ビジネスを広げるきっかけができた。今回はTAMのホームページがさらにグレードアップし、いろいろな情報を入手でき、スムーズに商談に入れた。各社のコンタクト先も掲載されて、事前交渉もある程度行える環境があり、大変有難かった。

Mr. Karsten Küstner (ドイツ) ■ KASTELLA MEDIA



海外では日本のアニメソングやビジュアル系の人気が高いけれども、それ以外のジャンル、たとえばインディーズ、ジャズなどにも非常に可能性を感じる。TAMには今回初めて参加したが、真剣に海外展開を考えているさまざまなレーベルと接する機会を与えてくれ、よいチャンスをいただいたと思っている。

Mr. Elvin Pagiras (フランス) ■ Module



日本のコンテンツを海外へ送り出すきっかけになるイベントとして、TAMは不可欠だと思う。日本にフォーカスし、日本で開催することに意味がある。また、出展レーベルのアーティストの生のライブとの連携などがあると、実際のファンの反応も見られていいと思う。

ビジネスセミナー

10月23日

23日には品川プリンスホテルで、国内外の関係者向けに、日本音楽の海外展開についてビジネスセミナーが開催された。パッケージからノンパッケージへの劇的な変化、世界的な大不況の渦中にある一方で、空前のCool Japanブームの起きている欧米の音楽ビジネス市場にフォーカスして、2部構成で行われた。

セッション1は「激動する欧米の音楽市場と非メジャーレーベルの現状」のテーマのもと、パネルディスカッション形式で行われた。欧米の非メジャーレーベルの関係者、学識経験者をパネリストに招聘し、激動する欧米の音楽ビジネス市場の現状の紹介・分析をベースに、欧米における日本音楽の可能性を検証した。ヨーロッパ、オーストラリア、北米それぞれの地域における日本音楽の受け入れられ方やインディーズレーベルに求められる取り組みなどが議論された。

セッション2も同じくパネルディスカッション形式で、「日本アーティストの欧米進出と配信の現状」をテーマとしたセミナーが行われた。パネリストには国内外から、欧米の音楽市場の最前線で活躍し、日本の音楽の導入に関わってきた方が招かれた。各自の立場から、具体的な成功事例を交えつつ、欧米市場の動向について詳細な報告が行われ、欧米市場から日本の音楽に注がれる熱い期待感が語られた。

ビジネスセミナー講師

セッション1：激動する欧米の音楽市場と非メジャーレーベルの現状

■ モデレーター

上出卓氏 (ILCJ理事)

■ パネリスト

Dr. Angela Beattie, PhD

〔人類学博士 / マウントロイヤル大学社会学・人間学部准教授〕

Mr. David Vodicka

〔Rubber Group of Companies マネージング・ディレクター / AIR 理事長 / MIFF 理事 / ARIA 理事〕

Mr. Jonas Sjöström

〔Playground Music Scandinavia AB 社長 / Impala 取締役 / SOM 会長 / SLR 会長〕

セッション2：日本アーティストの欧米進出と配信の現状

■ モデレーター

福光衛氏 (株) ライツスケール 代表取締役

■ パネリスト

Mr. Isaac Bess

〔IODA グローバル・ビジネス・デベロップメント部 シニア・ディレクター〕

Mr. Pierre 'Reyep' Renaud

〔JaME Networks CEO〕

Mr. Rob Kelso

〔Maru Music レーベル マネージャー〕

Ms. Gaelle Buecheler

〔Wasabi Records〕

伊佐山健氏

〔(株) ソニー・ミュージックエンタテインメント IMA グループ IM オフィス マーケティング課 課長〕



セッション 1



セッション 2

アニメソングライブ

10月23日

TAMの最後を飾るライブイベントとして、23日に10アーティストが参加したアニメソングライブが行われた。ライブ会場となったステラボールには、数多くのアニメファンが集結。生沢佑一、ELISA、Keno(キーノ)、Kimeru、下川みくに、スフィア、戸松遥、飛蘭、腐男塾(フダンジユク)、牧野由依(五十音順)の各アーティストが繰り広げる個性的なパフォーマンスに高いテンションで応え、終始熱狂的なステージとなった。海外からも注目度の高いアニメソングに特化したライブとあって、海外バイヤーの注目度も高く、超満員の盛り上がりを見守る関係者の姿が見られた。

財団法人音楽産業・文化振興財団(PROMIC)の桑原誠専務理事に、今回のTAMのポイントや今後の方向性、PROMICの役割などについて語っていただいた。



日本の音楽コンテンツと 海外市場の出会いの場を広げていくために

財団法人音楽産業・文化振興財団
専務理事 桑原誠氏

海外での音楽ビジネスはもはやパッケージのライセンスだけでは語れなくなっています。音楽配信をやりながらパッケージ展開へ結びつけ、あるいはライブイベントからいろいろなビジネスが育つなど、アーティストを動かす多様な仕掛けを入りに、ビジネスが広がるようになってきたのです。そういう環境も踏まえて、今回のTAMでは、まず、音楽配信やライブ関連でも発展的な海外展開が図れるよう、海外招聘者のジャンルを広げ、きめ細かい人選を行いました。

それと連携しますが、TAMのウェブサイトを更新しました。日本の音楽を買いたい海外の招聘者や自発的な参加者、海外に売り込みたい国内レーベルが登録できるシステムを作ったのです。こうして国内外の登録者がお互いの情報にアクセスでき、さらには掲載したメールアドレスからダイレクトにコンタクトできるようになりました。5日間のTAM期間中に交渉をすべて行うことは物理的にも不可能です。事前打ち合わせをウェブを通じて行う仕組みを作ることで、限られた5日間を、たとえば重要なフェイス・トゥ・フェイスの交渉に使えるなど、より有効活用していただけです。またTAMの終了後の継続的な商談をサポートする意味でも、重要な役割を担えるのではないかと考えて

います。B to Bイベントのウェブサイトとして、より機能性を高めたつもりです。

また、TAMもCoFestaのオフィシャルイベントとして3回目を迎えましたが、同じオフィシャルイベントの「2009TIFF-COM」(東京国際映画祭のビジネスセッション)との連携イベントを開催したことも、今回の大きな特徴です。アーティストの中孝介さんが大ヒットした台湾映画「海角七号」に出演したケースを取り上げ、映像と音楽のコラボレーションをテーマにしたセミナーなどを行いました。

TAMを通じてPROMICの役割や立場を改めて考えることができました。やはり海外市場と国内レーベル各社とを結ぶ場をどんどん広げることが重要だと実感しています。国内外の音楽ビジネスの窓口になるような、ウェブサイトを使った取り組みも構想しています。国内音楽市場が厳しい環境にある一方で、Cool Japanのような何十年に1回という追い風も吹いています。このチャンスを日本の音楽産業の皆様が有効に活かせるようにサポートしていきたいですね。TAMも回を重ねるごとに認知度を高め、実効性の高い価値あるイベントに育ってくれればと願っています。(談)

2009年度CDレンタル店実態調査

当協会では、全国のCDレンタル店の実態調査を、毎年当協会調査員による訪店調査により実施している。26回目となる今年は、店舗規模・業態を勘案したサンプル調査方式で975店の訪店調査を行った。

調査概要

- 調査期間：2009年4月～6月
 - 調査方法：対象店舗への訪店調査
 - 調査店舗数：975店
 - 調査：(社)日本レコード協会業務部調査室
- ※在庫総数は調査結果を基に全店規模を推計した

2009年の特徴

1. 店舗大型化傾向止まる(図-1参照)

平均店舗面積(他の売場を含む)は年々拡大を続けてきたが、今回初めて縮小に転じた(前年比3%減)、CDレンタルコーナー(同3%減)、DVDとビデオレンタルコーナー(同±0%)、新品・中古CD販売、書籍、ゲームソフトの販売などその他コーナー(同7%減)となっている。

2. レンタル用CDアルバム在庫の増加(図-2参照)

アルバム在庫は引き続き増加し、総在庫数・1店舗あたりの在庫数ともに増加した。一方、シングル在庫の減少も続いている。これにより、1店舗あたりの在庫数は増加したが、総在庫数は、ほぼ前年並となっている。総在庫数のシングル・アルバム比は昨年の9対91から8対92になった。

3. 書籍レンタル兼業店の増加

書籍レンタル(コミックを含む)の兼業店が大幅に増加し、取扱店舗が全体の31.7%(前年24.2%)になった。

● 店舗数2.6%減少

CDレンタル店舗数は1989年末の6,213店をピークに毎年減少を続け、2009年6月末現在で2,893店と昨年末比2.6%減、'89年末対比で53.4%減となった。

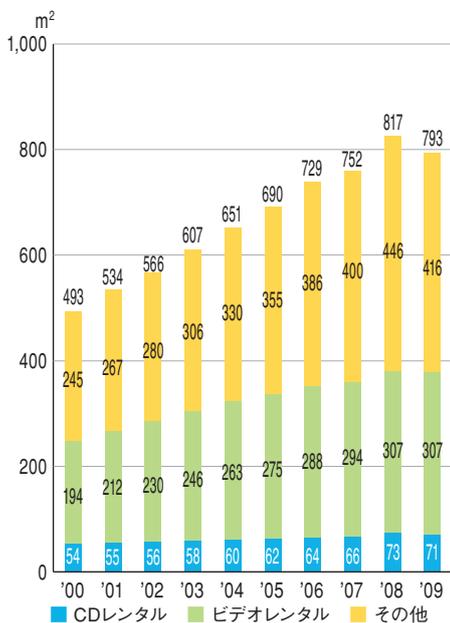
また、今年1月から6月までの間に、新規開業店(含む閉鎖店舗の買収、M&A)は189店、閉店は265店と、454店が入替わっている。(図-3参照)

● CDレンタル店の兼業状況

書籍レンタルの兼業が大幅に増加し、その他は昨年とほぼ同じであった。兼業状況の内訳を見ると、中古CD販売97.7%(前年97.2%)、中古CD買取店27.1%(同31.8%)、書籍販売51.9%(同55.5%)、ゲームソフト販売44.8%(同49.5%)、コミックを含む書籍レンタルは31.7%(同24.2%)となっている。

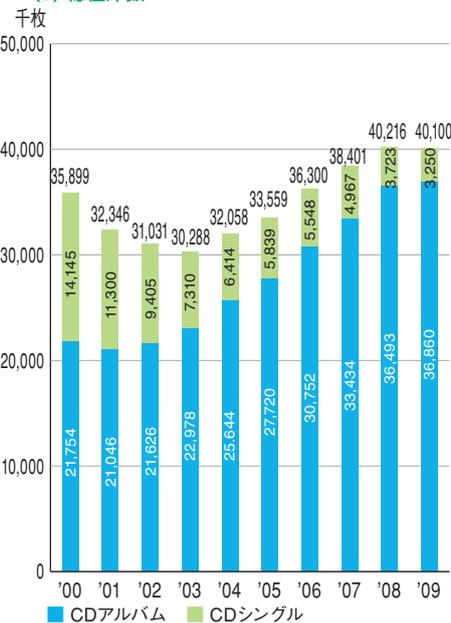
なお、在庫のDVD化が進む映像レンタルについて、ビデオテープの取扱店舗が全体の63.5%(前年80.4%)と大幅

■ 図-1: 店舗面積 (1店舗平均)

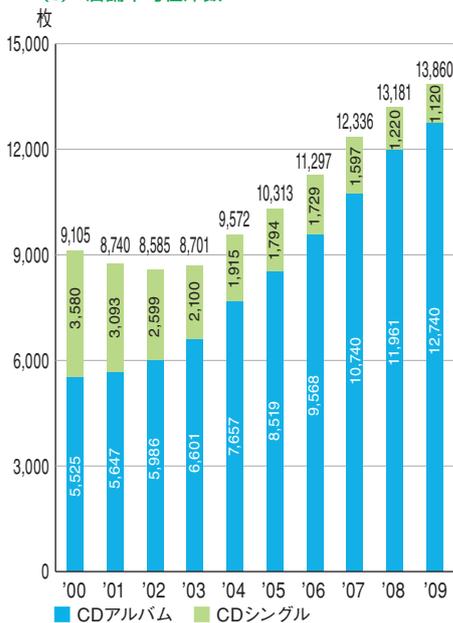


■ 図-2: CD在庫状況

(a) 総在庫数



(b) 1店舗平均在庫数



に減少した。また、映像レンタルの在庫比率でビデオテープは、4%にまで落ちてきた。(表-1参照)

平均31,910枚(前年比22%増)となり、ビデオテープとDVDの入れ替えがさらに進んでいる。

● CDレンタル店の在庫

ここ数年の傾向として、レンタル用CDの在庫数はシングルが減少、アルバムが増加し、全体はほぼ横ばいである。

内訳を見ると、シングルは3,250千枚で前年比12.7%減、アルバムは36,860千枚で1.0%増となった。(図-2(a)参照)

また、1店舗当りの平均在庫数で見ると、シングルは1,120枚で前年比8.2%減、アルバムは12,740枚で6.5%増となり、シングル・アルバムの合計在庫数は13,860枚で5.2%増となっている。(図-2(b)参照)

なお、CDの在庫規模による店舗数分布を見ると、小型店(4千枚未満)は2.8%(前年比0.1ポイント減)、中型店(在庫数4千枚~1万枚未満)は25.9%(同 4.7ポイント減)、大型店(1万枚~1万5千枚未満)は33.8%(同 1.3ポイント減)、超大型店(1万5千枚以上)は37.5%(同 6.2ポイント増)となり、大型店の比率が上がっている。(図-2(c)参照)

ビデオレンタル兼業店のビデオテープの在庫数は、1店当たり平均2,310本(前年比44%減)と大幅に減少した。

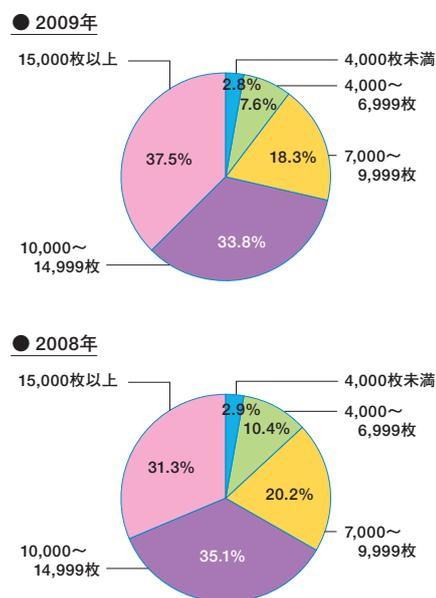
一方、DVDレンタル兼業店のDVD在庫数は、1店当たり

まとめ

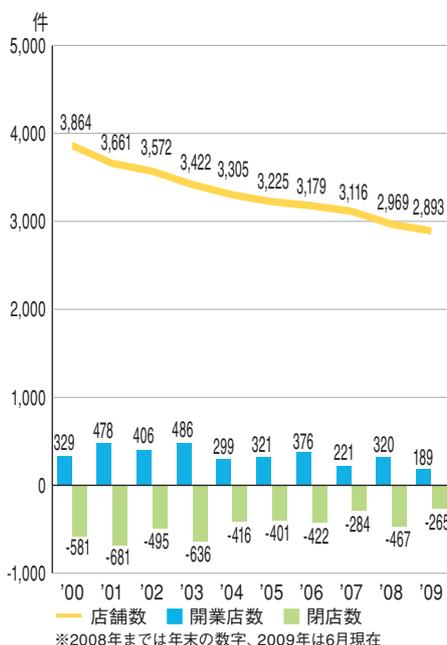
CDレンタル店の店舗数の減少は続いているが、大型在庫店の比率が上がっているため、店舗面積・在庫数では、ほぼ横ばいで推移している。

在庫内訳では、CDはシングル対アルバム、映像はビデオ対DVDの在庫比率が大きく変わり、コミックを含む書籍レンタルの取扱店舗が大幅に増える等、CDレンタル店は、市場のニーズに合わせて変化していることがわかる。

(c) CD在庫規模別の店舗数分布状況



■ 図-3: CDレンタル店数と開業・閉店の推移



■ 表-1: ビデオ・DVD兼業状況と比率

	兼業率		在庫比率 ビデオ: DVD
	ビデオテープ	DVD	
2009年	63.5%	99.8%	4:96
2008年	80.4%	99.8%	11:89
2007年	98.4%	99.6%	28:72

PICK UP

今月のニュース・ピックアップ

PICK UP

著作権啓発ビデオ刷新

当協会では、若年層を対象に「音楽創造のサイクル」を守ることの大切さを伝え、著作権意識の向上を目的として、著作権啓発ビデオ「守ろう大切な音楽を♪」を作成した。主に、会員社および当協会が対応する修学旅行生等の職場訪問時に教材として使用される。

ビデオでは、1人のアーティストのデビューまでの道のりが、レコード会社スタッフの仕事内容と絡めながらドラマ仕立てで展開され、一枚のCDが出来上がるまで、たくさんのスタッフが関わっていることを視聴者に伝える。また、2010年1月より施行される改正著作権法の内容にも触れ、権利者に無断でアップロードされた音楽・映像ファイルであることを知りながら、そうしたファイルをダウンロードすることが、私的使用目的であっても違法となることを訴求している。

本ビデオは、著作権啓発の教材として、会員社の他、希望に応じて教育機関にも貸し出しを行う。



著作権啓発ビデオ「守ろう大切な音楽を♪」でのワンシーン

PICK UP

アジア・コンテンツ・ビジネスサミット2009開催

10月15～16日、東京都港区のウェスティンホテル東京において、経済産業省主催による「アジア・コンテンツ・ビジネスサミット2009」が開催された。このビジネスサミットは、「JAPAN国際コンテンツフェスティバル2009」のオフィシャルイベントとして、中国、香港、韓国、タイなど7カ国・地域が参加し、アジアコンテンツ産業におけるビジネスネットワークの強化を目的とする国際会議として初めて行われたものである。映画、テレビ映像、音楽、ゲームおよびアニメーションの各分野について共同製作や資金調達システム、人材交流などの可能性が検討された。

16日のセッション3「音楽、ゲーム産業の国際展開」では、(財)音楽産業・文化振興財団 北川理事長から日本の音楽産業の海外展開への取り組みについて東京アジア・ミュージックマーケットの内容を中心に講演があった。海外の参加者から「アニ

メーションと音楽のコラボレーションの現状」や「映画とのタイアップ」などについて質問があり、映像と音楽のコラボレーションへの興味が強く感じられた。

二日間の会議を踏まえ、アジア発のコンテンツの世界発信などの内容が盛り込まれた共同宣言のとりまとめを経済産業省で行っており、11月中旬に発表される予定となっている。



PICK UP

今月のニュース・ピックアップ

PICK UP

第二回CDショップ大賞開催

全日本CDショップ店員組合(www.cdshop-kumiai.jp)は、第二回CDショップ大賞の実施概要を発表した。

いま音楽を取り巻く多くの課題がある中、CDショップの現場から、もっと音楽を盛り上げていきたいという思いのもと、昨年設立されたCDショップ大賞は、全国のCDショップ店員の投票だけで選ばれる賞である。メジャー、インディーズを問わず、過去1年間に発売された作品を対象とし、素晴らしい作品、新しい才能を伝えていくことを目指している。

第一回CDショップ大賞授賞式は今年の5月12日(火)にHMV渋谷店3Fイベントスペースにて開催され、全国148人のCDショップ店員が1人3作品までを投票し、その結果上位29作品をCDショップ大賞のノミネート作品として決定した。そして第一次投票によって選ばれた29作品全てを聴いた101人のCDショップ店員の投票によって二次選考を行い、大賞にふさわしい作品を決定し授賞式にて発表した。

第二回CDショップ大賞の実施要項は下記の通り。

第二回CDショップ大賞 実施要項

◆ 選考基準

「この国には、過小評価されている音楽が多すぎる。」という問題意識のもと、CDショップ店員が「この作品を心から売りたい」「お客様に絶対聴いてもらいたい」と感じる作品を選考する。一般の音楽ファンの方々に、これまで知らなかった素晴らしい作品、アーティストとの出会いをもたらすような賞であることを目指す。

◆ 選考対象

2009年1月1日～2009年10月31日までにリリースされた邦楽オリジナルアルバム(ベスト盤を除く)

◆ 投票資格者

新譜を扱うCDショップの店員(アルバイト、パートも含む)

◆ 選考方法<二次投票制>

- ・一次投票 2009年11月2日(月)～11月16日(月)
→ 一次投票は1人3作品を選んで投票。
→ 一次投票の集計により、上位20作品を「ノミネート作品」として、二次投票の対象とする。
- ・二次投票 2009年11月26日(木)～12月8日(火)
→ 投票者は一次投票で選ばれた「ノミネート作品」をすべて聴いた上で投票。
→ 上位3つの作品に、順番をつけて投票。
→ 投票換算はポイント制 >>>1位 4point/2位 2point/3位 1point

◆ 投票方法

以下の3つの方法で投票を行う。

WEB→ <http://www.cdshop-kumiai.jp/cdshop-taisho/>

携帯→ チラシ掲載のQRコード、あるいは<http://m.cdshop-kumiai.jp/>

FAX→ チラシ裏面の投票用紙を使用、あるいは、
<http://www.cdshop-kumiai.jp/cdshop-taisho/>にアクセスし、
専用投票用紙をダウンロードして使用。

◆ 洋楽賞の創設

第二回CDショップ大賞の新しい試みとして、素晴らしい「洋楽作品」もCDショップ店員の手で選び、伝えていこうという趣旨のもと「洋楽賞」を創設することが決定した。

<選考対象>2009年1月1日～

2009年10月31日までにリリースされた

「オリジナル楽曲で構成された洋楽アルバム

(国内盤のみ。ベスト盤、再発売を除く)」

* その他の選考基準、投票プロセス、投票方法などはCDショップ大賞に準ずる。

◆ 地方賞の創設

全日本CDショップ店員組合の活動は、いま全国に広がり、各地に支部が生まれている。その支部ごとに、その地域ゆかりのイチオシアーティストを「地方賞」として発表することが決まった。

* 地域ゆかりのアーティストの定義は「その地域出身」又は「その地域で活動している」アーティストとする。

◆ 発表/授賞式

2010年1月中旬予定

* 受賞アーティストの出演、演奏を予定している。

◆ その他・お問合せ先

CDショップ大賞実行委員会事務局

〒106-0031 港区西麻布4-16-9

NPO法人ミュージックソムリエ協会内(担当:吉川)

TEL: 03-3499-5633 FAX: 03-3499-3117

MAIL: cdshop-taisho@cdshop-kumiai.jp

● 第一回CDショップ大賞 受賞作品

大賞: 相対性理論 「シフォン主義」

準大賞: 大橋トリオ「THIS IS MUSIC」/Perfume「GAME」

入賞: 宇多田ヒカル「HEART STATION」/HY「HeartY」

SAKEROCK「ホニャララ」/Superfly「Superfly」

秦基博「ALRIGHT」/pupa「floating pupa」

Mr.Children「SUPERMARKET FANTASY」(五十音順)



600号を迎えたThe Record

今号(2009年11月号)で、当協会機関誌「THE RECORD」は600号を迎える。時代の移り変わりにより、その体裁や内容は変化してきたが、レコード産業の発展に寄与する姿勢を貫いてきた。今回600号を記念し、これまでの機関誌の歩みと当協会生野専務理事からのコメントを紹介する。



機関誌「The Record」600号に寄せて

(社)日本レコード協会 専務理事 生野 秀年

当機関誌「The Record」は、本号で記念すべき600号を迎えた。本稿の執筆に当たり、53年前の創刊号を改めてひもといてみた。機関誌発行のきっかけは、当協会としてレコード業界全体の積極的なPR運動に乗り出すべきとの理事会における議論であった旨を、当時の協会長(武藤正三)が“創刊のことは”で述べている。

当時、当協会のPR運動のテーマとして、SPレコードからLP・EPレコードへ移行に伴う諸問題(1955年:SPレコードの生産量シェア88%)、レコードの物品税問題(一部レコードを除き、20%の高率な物品税が課されていた)、外国レコードの印税支払に関する外貨資金問題(大蔵省の許可による外貨資金の割当枠があった)のほか、レコードの放送利用の問題、著作権法改正問題などがあつた。当時も問題山積であつたことが分かる。

これに対し、最近の機関誌のテーマは、違法音

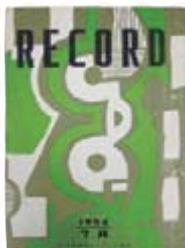
楽配信問題、「ネット法」等の権利者の権利切り下げの問題、CDパッケージと音楽配信の共生や「JAPAN国際コンテンツフェスティバル」等の日本コンテンツの海外普及促進への取り組み等、「デジタル化」、「ネットワーク化」、「国際化」がキーワードの中心となっており、当然のことながら、創刊時と大きく様変わりしている。

時の経過によって取り組むべきテーマは変わりこそすれ、創刊時の執筆者を始めとした諸先輩方のレコードに対する熱い思いや音楽文化発展のための獅子奮迅の働きぶりに誌面を通じて触れ、月並みではあるが、初心に返って、機関誌としての使命をしっかりと果たしていかなばならないと心から強く思う次第である。

関係各位からのこれまで以上の厳しいながらも温かいご指導、ご鞭撻を賜ることができれば幸いです。

1956年7月号

(B5サイズ、36ページ)



創刊号。著作権の解説や流行歌、流通、技術にまつわる連載、文化人によるエッセイなど充実した内容。

1958年11・12月合併号

(B5サイズ、20ページ)



レコードをモチーフにした表紙デザインがレトロな印象。海外のレコード業界に関する記事が目立つようになる。

1960年11・12月合併号

(B5サイズ、26ページ)



60～63年は、価格や消費者、物品税といったキーワードが目立つ。レコードの生産実績の記事も登場。

1963年10月合併号

(B5サイズ、24ページ)



66年にはアジアにおける音楽市場の実態が、また68年には東南アジアでの海賊版横行に関する記事が掲載される。

1970年1月号

(B5サイズ、26ページ)



70～80年は、二次使用料、再販制度といった今日でも馴染みの深いテーマが頻りに登場。また、海賊版についての記事も増加。

1980年5月号

(B5サイズ、36ページ)



81年頃からは貸レコード問題が毎号のように登場。また85年頃からは、私的録音に関する記事が見られるようになる。

1987年12月号

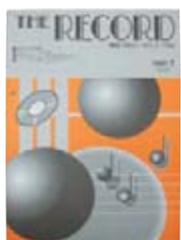
(B5サイズ、8ページ)



著作権に関する記事が増加。また需要拡大をテーマに各種キャンペーンの紹介も見られるようになる。

1997年1月号

(A4サイズ、12ページ)



A4サイズ、横組みに改訂。増刊号も年2回発行。カラオケ教室不法録音物対策委員会が発足し、関係の記事が増加。

2003年1月号

(A4サイズ、12ページ)



2003年頃から新しい音楽ソフトとして音楽DVDが目立つようになる。

2003年7月号

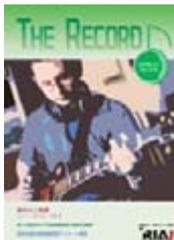
(A4サイズ、16ページ)



特集で読ませるスタイルへ。世界の民族楽器をモチーフにした表紙も好評。

2006年1月号

(A4サイズ、16ページ)



音楽配信統計、音楽配信認定が始まり、配信関係の記事が増加。

2007年1月号

(A4サイズ、16ページ)



CD25周年、レコード産業半世紀の歩みなど、産業団体ならではの特集が多く組まれた。一方で、急増する違法音楽配信への対策や、著作権法改正などに焦点をあてた記事が見られるようになる。

2008年7月号

(A4サイズ、16ページ)



全ページカラーとなる。関係省庁、関係団体からの寄稿、会員社へのインタビューが増え、よりリアリティのある誌面となる。エールマークや違法配信対策、若年層への啓発活動が多く取り上げられる。

私の一枚

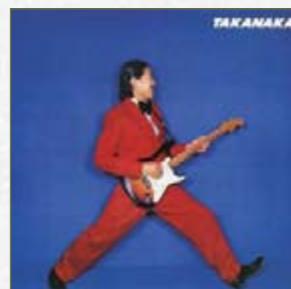


加藤裕一
(社)日本レコード協会 理事
(ビクターエンタテインメント株式会社
代表取締役社長)

● 「TAKANAKA」

(高中正義)

今年の9月15日、深夜自宅に帰ってテレビをつけたら、ある番組に釘付けになりました。帰宅してテレビをザッピングするのが私の習慣ですが、その日も地上波を一通り確認した後、BSをチェックしていたら、某チャンネルでリモコンの手が止まりました。高中正義のライブ「南西風～SUPER LIVE2008」をやっているではありませんか!!



「私の一枚」と問われたら…いつもその答えは同じ。高中正義のセカンドアルバム「TAKANAKA (1977年)」と答えます。そして、もし「私の一曲」と聞かれたら…それともいつも答えは同じ。「TAKANAKA」に収録されている代表曲「Ready to Fly」です。

アルバムの発売は77年ですが、私が初めて聴いたのは78年。ちょうど大学に入った頃の話です。

とある日、友人が突然言い出しました。「ねえ、みんなでバンドやろうと思うのだけど、加藤は何かできない?」当時、ギターやドラムをやる友人は多数いたのですが、周りにはキーボードをやる人間はおらず、彼らも困っていたようです。「ギターは弾けないけど、ピアノなら多少弾けるかなあ…」実は、3歳から中学1年までクラシックピアノを習っていた私は、内心は音大を目指したかったのですが、手が小さいのと自分の能力の限界に、その道を断念し、一般の高校～大学に進んだのでした。「大丈夫、大丈夫、クラシックピアノをやっていたのなら簡単だよ。わからなかったら、適当にコードを合わせてくれていれば良いから」これが、私のバンド体験のきっかけとなりました。しかし、ここで大きなカルチャーショックが!!楽譜がないのです!すなわち「耳コピ」という発想自体が当時の私になく、当然楽譜に合わせて弾くものだと思っていたのです。私に絶対音感がある訳ではなかったので、まずは聞こえてくる音がどの音なのか、その感覚を養うことから始まりました。

何度も何度もテープで曲を流しながら、それに合わせて弾いてみるという繰り返し。耳コピを知らないで、バンド仲間に加わって、どんな曲をやるのかさえ知らずに、渡されたテープ。そのテープに入っていたのが、「TAKANAKA」に収録されている「Ready to Fly」であり、初めてコピーした曲なのでした。

「奇妙な叫びとも、うめきとも取れないような声の重なりがしばらく続き、1分強にも及ぶ長いイントロから解き放たれようやく訪れる心地良いギターの音色。そして、曲が進むに連れ、大空に向かって飛び立つようなメロディといつまでも続く爽快感」

そんな楽曲が、いつの間にか「バンドの仲間に加わるために聴いている曲」から、「好きで好きでたまらないから聴いている曲」に変わりました。

その後はすっかり高中正義に魅了され、一気にフュージョンの道にはまってしまったのでした。このアルバムに出会ってから30年強、何百回聴いたことでしょう。

「あなたに出会えて良かった」と心から思える大事な大事な一枚&一曲です。

Monthly Production Report

2009年9月度レコード生産実績

9月度の音楽ソフト(オーディオレコード・音楽ビデオの合計)生産実績は、数量で前年同月比100%の2,524万枚・巻、金額で同109%の321億円となりました。この結果、音楽ソフト生産実績(金額)は、8月度に続き2ヶ月連続で前年同月を上回りました。

内訳は、オーディオレコードが、数量で前年同月比88%の1,894万枚・巻、金額で同94%の229億円、音楽ビデオが、数量で前年同月比168%の630万枚・巻、金額で同189%の91億円となっています。

● オーディオレコード

(数量:千枚・巻/金額:百万円)

		9月実績						2009年1月～2009年9月累計						
		数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比	
シ	8cmCD	邦	6	0	39%	2	0	25%	58	0	39%	30	0	35%
		洋	0	0	-	0	0	-	3	0	10%	1	0	19%
		計	6	0	39%	2	0	25%	61	0	34%	31	0	34%
ン	12cmCD	邦	2,713	14	74%	2,146	9	75%	33,168	21	84%	25,645	14	87%
		洋	12	0	217%	9	0	244%	268	0	74%	156	0	106%
		計	2,725	14	74%	2,155	9	75%	33,436	21	84%	25,802	14	87%
ル	小計	邦	2,719	14	73%	2,148	9	75%	33,226	21	84%	25,675	14	87%
		洋	12	0	217%	9	0	244%	271	0	70%	157	0	104%
		計	2,731	14	74%	2,158	9	75%	33,496	21	84%	25,832	14	87%
12cmCD アルバム	邦	9,998	53	84%	13,650	59	90%	86,137	55	88%	115,607	62	84%	
	洋	5,882	31	106%	6,849	30	112%	33,833	22	82%	41,153	22	87%	
	計	15,880	84	91%	20,499	89	97%	119,970	77	87%	156,760	85	85%	
CD 合計	邦	12,717	67	82%	15,798	69	88%	119,363	76	87%	141,282	76	85%	
	洋	5,894	31	106%	6,858	30	112%	34,103	22	82%	41,310	22	87%	
	計	18,611	98	88%	22,656	99	94%	153,466	98	86%	182,592	99	85%	
アナログ ディスク	邦	2	0	34%	3	0	19%	45	0	54%	92	0	75%	
	洋	4	0	138%	6	0	110%	32	0	70%	53	0	58%	
	計	6	0	64%	9	0	44%	77	0	59%	145	0	67%	
カセット テープ	邦	299	2	68%	255	1	67%	2,926	2	85%	2,248	1	81%	
	洋	0	0	-	0	0	-	0	0	0%	0	0	0%	
	計	299	2	68%	255	1	67%	2,926	2	85%	2,248	1	81%	
その他	邦	9	0	66%	7	0	26%	160	0	75%	163	0	44%	
	洋	14	0	119%	21	0	117%	115	0	65%	209	0	89%	
	計	24	0	90%	28	0	64%	275	0	70%	372	0	62%	
合計	邦	13,027	69	81%	16,063	70	87%	122,495	78	87%	143,784	78	84%	
	洋	5,912	31	107%	6,886	30	112%	34,250	22	82%	41,573	22	87%	
	計	18,940	100	88%	22,949	100	94%	156,745	100	86%	185,357	100	85%	

● 音楽ビデオ

		9月実績						2009年1月～2009年9月累計					
		数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
DVD	邦	5,593	89	172%	8,146	89	198%	37,318	90	98%	38,825	86	88%
	洋	667	11	132%	803	9	113%	3,999	10	132%	5,618	12	120%
	計	6,260	99	167%	8,949	98	186%	41,317	99	100%	44,443	98	91%
テープ・LDその他		42	1	1217%	174	2	1435%	312	1	435%	836	2	476%
合計	邦	5,629	89	173%	8,305	91	202%	37,598	90	98%	39,571	87	90%
	洋	673	11	133%	818	9	115%	4,031	10	133%	5,707	13	121%
	計	6,302	100	168%	9,123	100	189%	41,629	100	101%	45,279	100	93%

● 音楽ソフト(オーディオ/音楽ビデオ合計)

		9月実績						2009年1月～2009年9月累計					
		数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
オーディオ		18,940	75	88%	22,949	72	94%	156,745	79	86%	185,357	80	85%
音楽ビデオ		6,302	25	168%	9,123	28	189%	41,629	21	101%	45,279	20	93%
合計		25,241	100	100%	32,072	100	109%	198,374	100	89%	230,636	100	86%

● ビデオ(含音楽ビデオ)

		9月実績						2009年1月～2009年9月累計					
		数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
DVD		10,139	97	145%	17,197	94	135%	75,734	98	108%	129,239	95	101%
テープ・LDその他		325	3	1919%	1,186	6	1378%	1,828	2	899%	7,193	5	1035%
合計		10,464	100	150%	18,383	100	143%	77,562	100	111%	136,432	100	107%

● オーディオ/ビデオ合計

		9月実績						2009年1月～2009年9月累計					
		数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
オーディオ		18,940	64	88%	22,949	56	94%	156,745	67	86%	185,357	58	85%
ビデオ		10,464	36	150%	18,383	44	143%	77,562	33	111%	136,432	42	107%
合計		29,403	100	103%	41,332	100	111%	234,306	100	93%	321,789	100	93%

備考 1. 上記実績は、会員会社「58社」の集計である。当会員社が受託した非会員社からの販売委託分を含む。
2. 単位未満四捨五入により、内訳と合計が一致しない場合がある。
※オーディオレコードのその他はSACD、DVDオーディオ、DVDミュージック、MDの合計。

音楽ソフト

邦楽

アルバム

●ダブル・プラチナ

ayaka's History 2006-2009	絢香	2009.09.23	WJ
My song Your song	いきものがかり	2008.12.24	ES
Box Emotions	Superfly	2009.09.02	WJ

●プラチナ

ALL MY BEST	倉木麻衣	2009.09.09	NM
-------------	------	------------	----

●ゴールド

BEST A.I.	AI	2009.09.16	UM
BEST of CRYSTAL KAY	CRYSTAL KAY	2009.09.02	ES
心臓	KREVA	2009.09.08	PC
つるのおと	つるの剛士	2009.09.16	PC
GUILTY	V6	2009.09.02	AMI
Bitter & Sweet	BENI	2009.09.02	UM
BIG POPPER	lecca	2009.07.15	AMI

シングル

●ゴールド

10年桜	AKB48	2009.03.04	K
涙サプライズ!	AKB48	2009.06.24	K
言い訳Maybe	AKB48	2009.08.26	K
剣山	北山たけし	2009.01.21	TE
COLORS~Melody and Harmony~/Shelter	JEJUNG & YUCHUN (from 東方神起)	2009.09.30	AMI

ビデオ

●プラチナ

TOUR 2009 PUZZLE	関ジャニ∞	2009.09.23	TE
------------------	-------	------------	----

●ゴールド

namie amuro BEST FICTION TOUR 2008-2009	安室奈美恵	2009.09.09	AMI
KinKi you DVD	KinKi Kids	2009.09.30	JE
4th LIVE TOUR 2009 ~The Secret Code~ FINAL in TOKYO DOME	東方神起	2009.09.30	AMI

洋楽

アルバム

●ゴールド

Ne-Yo : ザ・コレクション	Ne-Yo	2009.09.02	UM
ディス・イズ・アス	バックストリート・ボーイズ	2009.09.30	SI
エッセンシャル・マイケル・ジャクソン	マイケル・ジャクソン	2005.08.24	SI

※日付は発売日

認定基準一覧

音楽ソフト(邦・洋、アルバム・シングル・音楽ビデオ)、音楽配信(着うた®, 着うたフル®, パソコンダウンロードシングル・アルバム)共通

名称	略号	基準
ゴールド	G	10万以上
プラチナ	P	25万以上
ダブル・プラチナ	PP	50万以上
トリプル・プラチナ	PPP	75万以上
ミリオン	M	100万以上
2ミリオン	2M	200万以上
3ミリオン	3M	300万以上
以降、100万毎に賞を設定		

基準単位：音楽ソフト・枚、配信・DL(ダウンロード)
※着うた®のみダブル・プラチナ以上を顕彰

※AMI：エイバックス・マーケティング／CR：日本クラウン／DF：デフスターレコーズ／ES：EPICレコードジャパン／JE：ジャニーズ・エンタテイメント／K：キングレコード／KS：キューンレコード／NM：ノーザンミュージック／PC：ポニーキャニオン／SE：エスエムイーレコーズ／SI：ソニー・ミュージックジャパンインターナショナル／TE：テイチクエンタテイメント／UM：ユニバーサルミュージック／WJ：ワーナーミュージック・ジャパン

有料音楽配信(「着うた®」他)

※「着うた®」「着うたフル®」は株式会社ソニー・ミュージックエンタテイメントの登録商標です。

「着うた®」

邦楽

●ダブル・プラチナ

君に会いたくなるから	西野カナ	2009.05.20	SE
Sunrise ~LOVE is ALL~	浜崎あゆみ	2009.07.22	AMI

「着うたフル®」

邦楽

●トリプル・プラチナ

Story	AI	2006.02.01	UM
-------	----	------------	----

●プラチナ

Sunrise ~LOVE is ALL~	浜崎あゆみ	2009.07.22	AMI
DAYBREAK'S BELL	L'Arc-en-Ciel	2007.10.10	KS

●ゴールド

久遠の河	alan	2009.04.08	AMI
今宵の月のように	エレファントカシマシ	2005.08.03	PC
My Gift to You	CHEMISTRY	2005.03.16	DF
さよならをキミに... feat.Spontania	Tiara	2009.08.26	CR
Stand by U	東方神起	2009.06.24	AMI
春夏秋冬	ヒルクライム	2009.09.16	UM
DIAMONDS(ダイヤモンド)	プリンセス プリンセス	2006.02.15	SE
Kiss Kiss Kiss	BENI	2009.04.08	UM
KISS~恋におちて...冬~	MAY'S	2008.11.26	K
Driver's High	L'Arc-en-Ciel	2006.12.20	KS
オレンジ	Lil'B	2008.05.14	DF

洋楽

●ゴールド

20世紀初年・ボーイ	T.REX	2007.10.05	TE
------------	-------	------------	----

※日付は配信開始日

協会からのお知らせ

当協会では、10月1日より「守ろう大切な音楽を♪」キャンペーンを展開しています。このキャンペーンは、2010年1月1日に施行される著作権法改正内容(違法サイトからのダウンロード違法化)の周知を目的とし、「エルマーク」および「やめよう違法ダウンロード、守ろう大切な音楽を♪」をテーマとして標語、ポスター、キャラクターを募集するものです。中高生を対象とし、これらの制作を通じて著作権意識の向上も期待しています。応募期間は12月11日まで。

詳細は下記URLをご覧ください。

<http://www.riaj.or.jp/mamo-on2009/campaign/>



Respect
our MUSIC



携帯音楽を守りたい

違法な音楽ファイルの利用はやめましょう

<http://www.mamo-on.jp>

THE RECORD No.600 2009年11月号
社団法人 日本レコード協会 機関誌

発行人 石坂 敬一
編集人 生野 秀年
発行日 2009年11月10日
発行 社団法人 日本レコード協会
〒107-0061 東京都港区北青山2-12-16 北青山吉川ビル11F
TEL. 03-6406-0510(代) FAX. 03-6406-0520(代)
URL: <http://www.riaj.or.jp/>

制作協力 株式会社エフピーアイ・コミュニケーションズ

編集後記

第6回目を迎えた東京アジア・ミュージックマーケットが10月19日より23日まで開催されました。会期中、バイヤーの方々とお話する機会がありましたが、改めて日本の音楽が世界から注目されていることを強く感じました。ビジネスへと繋がることはもちろんですが、日本の音楽文化が世界で認められているということは、誇らしく思います。インタビューでは、本イベントの継続を望む声を多く聞きました。TAMが日本音楽と世界との架け橋として、さらに発展することを期待します。(T)

■ 当機関誌へのご意見・感想がございましたら、当協会公式サイト(URL: <http://www.riaj.or.jp/>)のお問い合わせページよりお寄せ下さい。